

聖別された使徒たちの派遣

2022年10月2日

使徒の働き 13章1～3節 11章19～26節

序：いよいよサウロ（パウロ）がおもな働き手となって世界宣教が始動
3回の伝道旅行が展開して行く

エルサレム教会 ⇒ アンティオキア教会
ステパノ殉教

迫害
使徒たち留まる 信徒たち離散（巡り歩いて宣教）
フェニキア、キプロス、シリアのアンティオキア

I. アンティオキア教会の成り立ち 11・19～26 散らされた信仰者は、最初ユダヤ人にだけ伝道

アンティオキアに来た時、ギリシャ語を話す人たちにも福音宣教
キプロス人（エルサレム教会から派遣されたバルナバはキプロス出身）4・36
クレネ人（イエスの十字架をゴルゴタに運んだシモンはクレネ人）ルカ 23・26
大勢の回心者（ユダヤ人 < 異邦人）

バルナバは故郷に帰っていたサウロをタルソからアンティオキアに連れて来た
二人は一年間、そこで教会に集い、教えた
信者たちは、初めてクリスチャン（あだ名）と呼ばれるようになった

人数、信仰、活動において、主の豊かな祝福により増大（エルサレム教会を援助するほどに）

II. 世界宣教（海外伝道）の開始

(1) 神のご計画（聖霊主導）≠ 人間の計画

(2) 拠点：アンティオキア教会
第3の都市、歓楽・腐敗
異邦人キリスト信者が多い

(3) 豊富な賜物

(4) すぐれた人材（預言者、教師）：神のことば、イエス・キリストの福音

① バルナバ（キプロス出身のレビ人）

「慰めの子」

エルサレム教会の初期に信仰に入った

ヨハネ・マルコのいとこ コリタイ 4・10

自分の畑を売って献金

早くから指導者（聖霊と信仰に満ちた立派な人物）

サウロとほかの使徒たちの仲介（紹介者）

サウロを理解し、同労者として受け入れ、育てた

② ニゲル（黒人）と呼ばれるシメオン：クレネ人シモン？

③ クレネ人ルキオ

④ マナエン（領主ヘロデの乳兄弟）

ヘロデ大王の子

（ヘロデ・アンティパス）

バプテスマのヨハネを殺した

イエスを罪に定めた

→ 王子と一緒に宮殿で養育された

- ⑤サウロ（タルソ出身、元ユダヤ教エリート、ローマ市民権を持つユダヤ人）
ダマスコ途上で、劇的回心
迫害者 ⇒ 主のしもべ バルナバのとりなしで使徒の仲間入り

Ⅲ. 聖別と派遣

(1)聖霊の主導

- (2)彼らが主を礼拝し、断食（＋祈り）をしていた時
× 彼らが計画して、その実現を主に祈ったのではない
○ 神のみこころが、彼らが主を礼拝する内に啓示され、命じられた

(3)聖霊が言われた

- ①わたし（神）のために
②バルナバとサウロを聖別せよ
③ わたし（神）が召した働きに就かせよ

- (4)彼らは断食し、祈って、これが神から出た事と確認

- (5)二人に按手（任命のしるし）して、送り出す

Ⅳ. 結び

- (1)福音宣教は聖霊の働き（ふさわしい人たちを召して協力者として用いる）
一方的、強制的ではなく、主のみこころと分かって従うよう導く
預言者を通して告げられる／祈りを通して確認

- (2)福音宣教は主の聖徒たちの群れである教会の務め
送り出される働き人（本人の召しの自覚・確信、教会の批准・承認）
送り出す教会（祈り、献金、支援）

(3)福音宣教の目的

- ①福音を宣べ伝え、信仰によって主に立ち帰る人々が罪の赦しと永遠のいのちに入れられるため
- ②新しく生まれた神の子どもたちが教会（神の家族）に加えられ、さらに信仰者として成長するため
a. みことば b. 祈り c. 交わり d. 奉仕
- ③教会が力強く、健全に建て上げられるため
聖礼典（バプテスマ、聖餐）
戒規

Ⅴ. 鯖江開拓伝道は実例の一つ